

ふちゅうの生物多様性を豊かにする はじめての一步

生物多様性とは、「多様な種類の生きものが関わりながら、様々な環境に合わせて生活していること」をいいます。「生態系」、「種」、「遺伝子」の3つのレベルの多様性があります。
「3つのレベルの生物多様性」は、私たちのいのちと暮らしを支えています。

種の多様性

いろいろな動物・植物
や菌類、バクテリアな
どが生息・生育してい
ること

遺伝子の多様性

同じ種であっても個体
や個体群の間に遺伝子
レベルでは違いがある
こと

生態系の多様性

河川、森林、畑地、
斜面林など、いろい
ろなタイプの生態系
がそれぞれの地域に
形成されていること

私たちの暮らしとの生きものとの関わり

私たちの暮らしや文化は府中市固有の生物多様性に支えられています。この府中の生きものは府中でしか守ることができません。

一つ一つの個性を持つ生きものはそれぞれ生態系のつながりを持っており、たった一つの種が絶滅したとしても、見ること・食べることなど私たちの暮らしへ影響します。



私たちのいのちと暮らしを支える生物多様性

生きものがうみだす大気と水

- ・府中崖線などから生じる湧水
- ・武蔵野の雑木林などが調節する気温や湿度
- ・武蔵台公園などの街中の緑



西府町湧水

食料や落ち葉などの資源

- ・農地で獲れる^{まくわうり}真桑瓜やのらぼう菜などの地域固有の農産物
- ・肥料となる落ち葉
- ・多摩川などから獲れる魚介類



^{まくわうり}真桑瓜

生物の機能や形の利用

- ・ドクダミやヨモギなど薬草として利用される植物
- ・農産物などの品種改良
- ・古くから行なわれていた養蚕



ドクダミ

知恵と伝統

- ・大國魂神社やケヤキ並木の景観
- ・浅間山など農用林として利用される森林
- ・大國魂神社で行なわれる豊作祈願のお祭り



ケヤキ並木

生物多様性の4つの危機

私たちにとって重要な生物多様性は、次のような危機に面しています。

開発など人間の活動による危機

緑地の宅地化や野生の生きものの採取などの人間の活動によって、直接的に生物多様性が失われる危機です。



府中駅周辺の様子

人間の自然への働きかけの減少による危機

かつて農用林として主に利用されてきた浅間山などの雑木林が人の手入れ不足で荒廃し、生態系のバランスに影響を及ぼす危機です。



管理放棄された雑木林

人間により持ち込まれたものによる危機

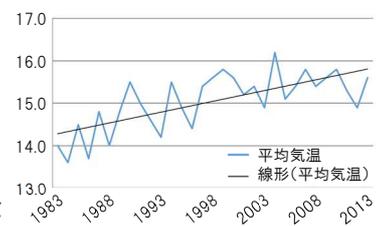
外国から持ち込まれた多摩川のブラックバスなどの魚類やアレチウリなどの植物によって在来の生きものの棲みかなどに影響を及ぼす危機です。



ヨシ原を覆うアレチウリ

地球環境の変化による危機

府中の気温は、1983年から2013年の30年間で約1.6℃も上昇しました。地球環境の変化は、生物多様性に大きな影響を及ぼす危機です。



府中の気温の経年変化

目指すべき姿

人と生きものが豊かに共存し いきいきしたまち

府中市には、浅間山公園、武蔵台公園、崖線などの「緑地」、多摩川や用水、湧水などの「水辺」、農地や社寺林などの「人里」など多様な生きものの生息場所があります。

私たちの暮らす「まち（府中市）」は、生物多様性の保全とその恵みの持続可能な利用をし、「人の生活」と「生きものの命」が豊かに共存した、いきいきと活気あふれるまちを目指します。

府中市の生物多様性への方針と取組

生物多様性に関する事項は様々な分野と密接に関わっています。第6次府中市総合計画、第2次府中市環境基本計画、府中市緑の基本計画 2009 等との整合を図りつつ、生物多様性の取り組みを実施します。

府中市の自然の特徴

府中市は南北に多摩川低地、立川段丘、武蔵野段丘の3つの平坦な土地からなり、東西に国分寺崖線、府中崖線、多摩川が走り、地形の骨格を形成しています。

土地利用からみても府中市は水や緑が豊富であり、私たちの暮らしは多くの自然の恵みによって支えられてきたことがわかります。



方針 1

市内に残された重要な生息地の保全とネットワーク形成

浅間山や崖線、多摩川などには多くの生きものが生息しており、それぞれの拠点の保全と共に、それぞれの拠点を結ぶネットワーク形成を進めます。

方針 2

在来種が生育しやすい
環境の整備

外来種の占める割合が年々増加しています。特定外来生物の防除を行い、本来の環境を整えます。

方針 3

自然を守る活動の
更なる推進

「浅間山自然保護会」「府中野鳥クラブ」「府中かんきょう市民の会」などの市民団体と協働し、生きものの生息地保護のため今後も自然を守る活動を推進します。

◆取組 1
生物多様性について知ってもらうために



- ・武蔵台公園などの自然観察調査を継続的に実施し、報告をします。
- ・府中の生きものマップを作成します。
- ・ウォーキングツアーや自然観察会を行い、生物多様性の啓発に努めます。
- ・生物多様性に関する情報をホームページ等で積極的に提供します。

◆取組 2
生き物とその生息空間の保全のために



- ・浅間山公園や武蔵台公園、崖線などの樹林地における管理指針をつくり、外来植物の駆除などの保全活動に取り組みます。
- ・多摩川のツバメの集団ねぐらの調査や保全活動に取り組みます。
- ・「府中水辺の楽校」の継続的支援を行い、参加者の増加を図ります。
- ・市内の外来生物の情報の把握に努めます。
- ・まちに点在する貴重な農地を今後も守るとともに環境に配慮した農業の支援をします。

◆取組 3
生物多様性の保全活動のために



- ・環境保全活動センターの機能拡充を図り、市民や事業者等との連携を強化します。
- ・研究機関や専門機関との連携を深め、生物多様性に関する取り組みを推進するとともに、これを支える人材育成に努めます。

生物多様性との付き合い方3つのステップ

人と生きものが共生するために、たくさんの生きものとの深い関わりを「知り」、生きものについて「学び」、生きもののために「行動する」ことが大切です。

Step1. 知る

触れる・感じる・気づく
・観察する



Step2. 学ぶ

調べる・教えてもらう



Step3. 行動する

参加する・伝える・連携する



ちょっとしたことで生物多様性

「ちょっとしたこと」でも、私たち一人ひとりが「知り」「学び」「行動する」ことで、府中市の生物多様性が豊かになることにつながります。そのためのヒントを紹介します。

家で



Step1 知る、Step2 学ぶ

- 家族で府中の自然や生きものについて話をします

近所を歩いて身近な自然を発見し、家族で話をすることにより生きものを知るきっかけとなります。

Step3 行動する

- 府中で採れた旬の野菜を食卓にのせます

府中でとれた農作物を食べる地産地消の行動は農地を守り、地域の生態系を守ることにつながります。

- 家の周りの緑化をします

屋上やベランダで花を育てたり、緑のカーテンなどで緑化をしましょう。その際、園芸に用いられる植物が逃げ出して、雑草化することがあるので、外に広がらないように抜き取りましょう。

- 身近な植物や昆虫などを観察し、記録しましょう

身近な植物、やってくる昆虫や野鳥を記録します。その時その場所に、ある生き物がいたことを示す重要な証拠となります。

生物多様性を豊かにする取組例

緑の基本計画 2009 で示している緑の構造図（水と緑のネットワーク形成方針図）には緑の拠点があり、この拠点を中心に府中市内の各所で市民、事業者が様々な取組を行っています。府中市では多くの人々と連携し、生物多様性を豊かにするために、この緑の拠点を重点拠点として取り組んでいきます。

■武蔵台公園

【概要】

国分寺崖線の崖線林の一角で、雑木林と崖線の特徴が併せ見られる場所であり、武蔵野の面影を残した公園です。生きものの通り道としても重要な場所となっています。

【今後に向けて】

府中市自然環境調査員による自然環境調査を継続的に進め、適正な管理を行います。



散策路



樹液を吸う
チョウとカナブン



■地元大学との連携

【概要】

国立大学法人東京農工大学は「国立大学法人東京農工大学と地域を結ぶネットワーク」を平成14年に設置し、子ども樹木博士などのイベントや教養セミナーを行うなど、府中市との連携を進めています。

【今後に向けて】

生物多様性への科学的知見に基づいた行動のために、研究機関や専門機関との連携をさらに深めていきます。



子ども樹木博士

■都立浅間山公園

【概要】

ムサシノキスゲやキンランなど、貴重な植物が自生しており、武蔵野の面影を残した良好な自然環境がみられる公園です。キスゲフェスティバルや全山清掃など、様々なイベント活動や保全活動が行われています。

【今後に向けて】

東京都をはじめ市民団体と行政の協働により、適正な維持管理に努めます。



ムサシノキスゲ



キンラン

■事業者の取組み

【概要】

株式会社東芝府中事業所では、生態系ネットワークの中継点として、在来種での森づくりや水系ビオトープの整備を事業所内で進めています。

【今後に向けて】

市内に数多く存在する事業所の緑地や緑化によって生態系ネットワークを形成します。



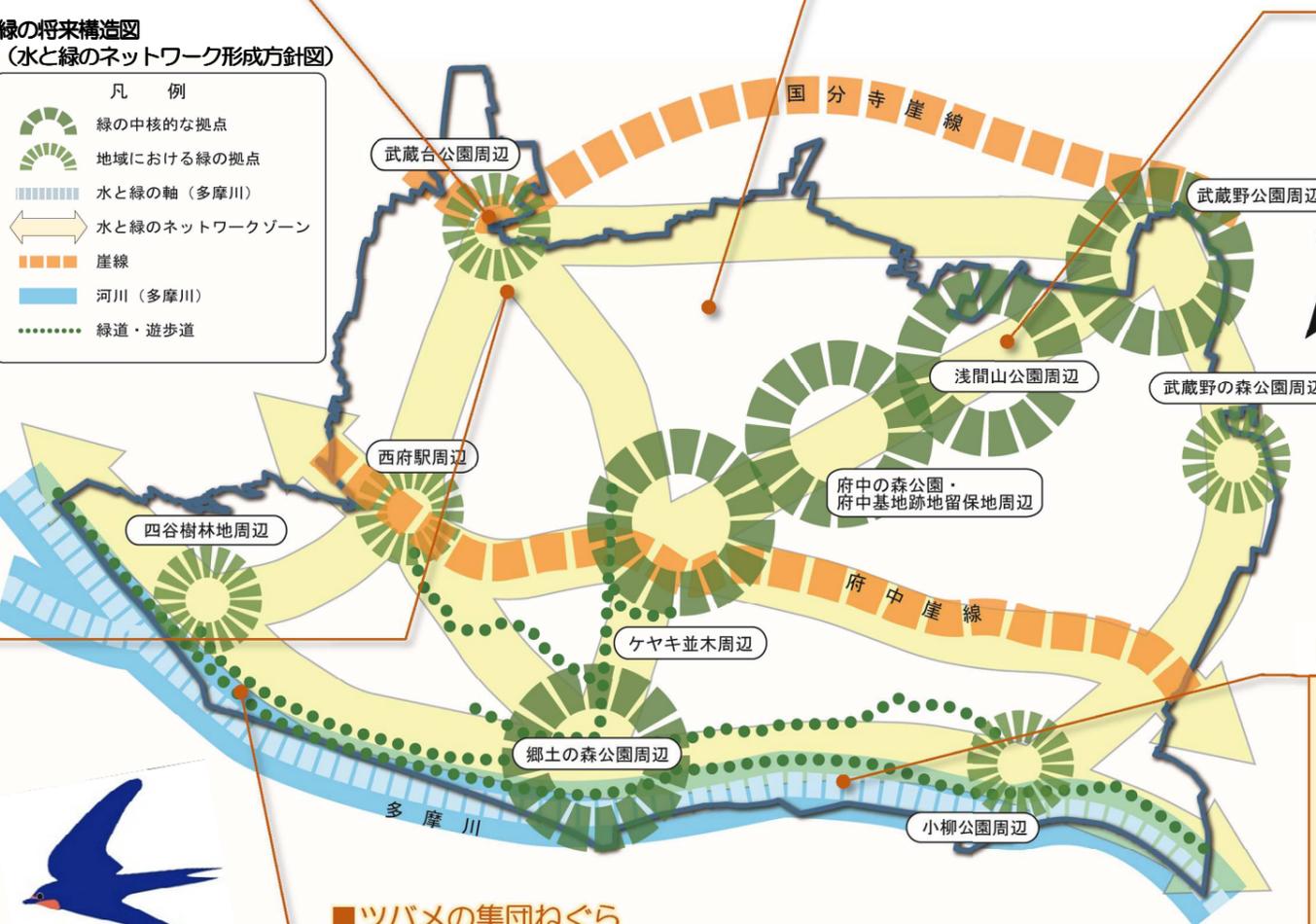
様々な生き物が見られる
水系ビオトープ



在来種を用いた森づくり



ツバメの集団ねぐら観察会



■ツバメの集団ねぐら

【概要】

府中市四谷小学校前の多摩川河川敷ヨシ原には、巣立ち後や、繁殖を終えたツバメたちがつくる、集団ねぐらが観察できます。多摩川流域では最大級のツバメの集団ねぐらです。

【今後に向けて】

ねぐらとなるヨシ原を覆うアレチウリの駆除作業を継続・拡大するとともに、ツバメの子育て調査も進めます。



ツバメの集団ねぐら観察会

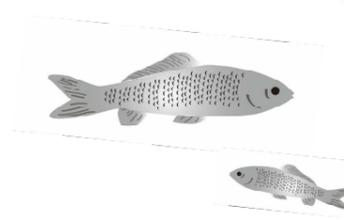
■府中水辺の楽校

【概要】

小学生とその保護者を対象に、多摩川の持つ豊かな自然を活用し、川遊びをしたり、生きものや植物などの観察を行い、楽しみながら学ぶことを大切にした活動を行っています。

【今後に向けて】

身近な自然の大切さを学ぶ貴重な機会をより多く提供できるように継続的に支援し、市民へ広く紹介していきます。



府中水辺の楽校

Step 1 知る

- 昔の府中の様子や生活を知る機会をつくります

昔から府中に住んでいる人に話を聞いたり、昔の地図や写真を見たり、生きものとの関わりについて考え、話し合ってみましょう。生きものが私たちの住むまちと深く関わっていることがわかります。

Step 2 学ぶ

- 外来種について学びます

地域の生物多様性を高めるためには在来種が生育しやすい環境を整える必要があります。まず特定外来生物が何であるかを学び、どのような場所に多いのかを観察してみましょう。

Step 3 行動する

- 建物の周りの緑化をします

建物の屋上や壁を緑化し、緑のカーテンをつくること等で緑の量を増やすことができます。こうした緑は昆虫や小さな生き物の生息地になります。また、建物の緑化は夏場の室温上昇を防ぐことにも貢献します。

- 校庭や事業所を生きもの空間にします

校庭や事業所には長い間手を加えていない土があります。除草をむやみに行ったり化学肥料を使ったりせず、必要以上に手を加えないことによってその場所に合った管理を行いましょう。このように地域の生態系に配慮した空間をつくることで、どのような生きものがやってくるか観察をしましょう。

学校・職場で



野外で

Step 1 知る

- 緑地・河川敷を散歩します

まとまった樹林が残されている浅間山・武蔵台緑地や水と緑の骨格をなす多摩川と野川では驚くほどたくさんの生きものが観察できます。こうした場所を訪れ、府中の生きもの多様性を実感してみましょう。

Step 2 学ぶ

- 自然観察会や各種取組に参加します

浅間山での雑木林の保全活動、多摩川でのツバメのねぐら観察会、馬場大門ケヤキ並木の保全活動など多くの活動が行われています。こうした活動に参加することが生物多様性の保全に貢献します。

Step 3 行動する

- 野生動物に対するマナーを守ります

ペットを野外に放すこと、野生の動物に餌をあげること、緑地に他の場所から持ち込んだ植物を植えることなどは生物多様性の増加にはなりません。生きものを持ち込まない、持ち出さないことをマナーとして守りましょう。

- ゴミは捨てない、ゴミを拾います

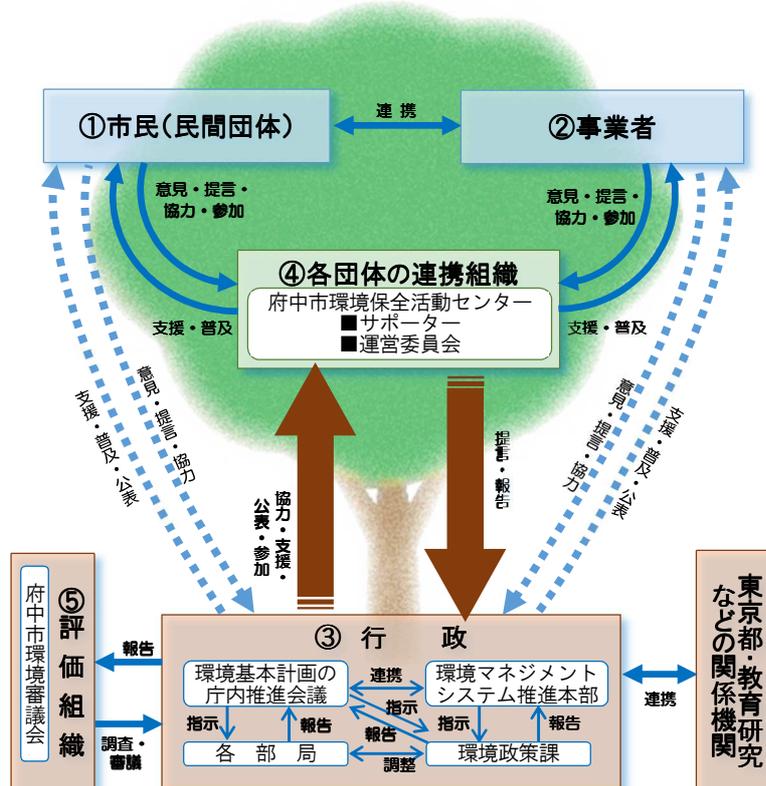
釣り人が捨てた糸が野鳥の足にからまったり、不用意に捨てたゴミを動物が食べてしまったりすることがないように、ゴミ捨てマナーを守ることは生きものを守る上でも重要です。



取組を進めるための推進体制

府中市の生物多様性を豊かにするためには、市民・事業者・行政のそれぞれが主体的に行動し、連携しながら取組む必要があります。

府中市は行政機関として、科学的知見に基づいた行動のために研究機関や専門機関との連携を深めるとともに、多摩川を管理する国土交通省や浅間山公園などの都立公園を管理する東京都、また、生きものには市境といった概念はないので、府中市近隣の周辺自治体など、他の行政機関などとの連携した取組を進めます。



戦略策定にあたって

-  この戦略は、府中市の生物多様性を豊かなものにするための、「第一弾」の取組事項です。生物多様性について、「知る」「学ぶ」「行動する」ことで、生物多様性の主流化を図ることが「はじめの一步」です。
-  戦略期間は5年とし、緑の基本計画に示した重点拠点を中心に取組を進めていきます。
-  成果や課題を整理しながら、計画（Plan）・実行（Do）・評価（Check）・改善（Action）を繰り返し、市民の皆さまとともに一つひとつできることから取り組みます。
-  進行状況は、ホームページや広報などを通じ、市民の皆さまに公開します。

お問合せ：府中市生活環境部環境政策課
 〒183-8703 東京都府中市宮西町2丁目24番地
 電話 042-364-4111（代表）
 FAX 042-361-0078（環境政策課）
 ホームページ <http://www.city.fuchu.tokyo.jp>